

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

## この号の内容

- 1 イタリア 名門がロッカールーム清掃&置き手紙「日本代表見ならって」
- 2 サッカーW杯での日本サポーターのゴミ拾い「マナー違反」「掃除人の仕事を奪った」ネットで議論
- 3 EU支部だより

- ・立つ鳥跡を濁さず
- ・マナー違反



- ・雇用機会の確保
- ・パブリックマナー



## イタリア 名門がロッカールーム清掃&amp;置き手紙「日本代表を見ならって」

2018/7/29 フットボールチャンネル

イタリア1部のフィオレンティーナが、「日本スタイル」を見ならったと評判だ。イタリア『スカイ』が伝えている。新シーズンに向けた準備をしているフィオレンティーナは、ドイツのデュイスブルクで行われたプレシーズンのカップ戦に参加した。その後、フィオレンティーナはロッカールームを清掃し、1枚の置き手紙。ドイツ語で「お引きいただき、ありがとうございました」と記して去った。その様子はクラブのツイッターでも紹介されている。これはロシアワールドカップ・ベルギー戦のあとの日本代表のロッカールームの様子に酷似しており、『スカイ』は「日本のスタイルを手本にした」と紹介した。「立つ鳥跡を濁さず」。日本代表の姿勢が、世界的に広がりを見せていくかもしれない。

サッカーW杯での日本サポーターのゴミ拾い「マナー違反」  
「掃除人の仕事を奪った」ネットで議論

2014/6/18 18:32 JCAST ニュース

サッカーワールドカップ(W杯)ブラジル大会で日本がコートジボワールに1-2で敗れた後に日本人サポーターがスタジアム内のゴミ拾いをした。この様子が写真付きで伝えられると、世界中から「礼儀正しい」「日本を尊敬する」などと褒め称えられたと報道されたが、実はこの行為「迷惑行為であり」やってはいけない事だった、そう指摘する記事が出た。ゴミを拾う職業がありその人から仕事を奪うことになった、というのだが、ネットでは「自分が汚した場所を掃除して何が悪い!？」などと批判が起こりちょっとした「炎上」騒ぎになっている。

## EU支部だより —キャンディの包み紙—

今、サッカーでは日本人が賞賛されている。ワールドカップロシア大会やアジア大会等で日本チームは控室を片付けて帰った。ゴミが1つもおちておらず、タオルもたたみテーブルの上に置かれ、さらに、アラビア語、日本語、英語で書かれた「ありがとう」のメッセージがホワイトボードに書かれていたと賞賛を受けている。日本人サポーターもスタジアムのゴミ拾いをして帰る様子が伝えられ、感銘を受けたペルーやコロンビア、ゼネガルのファンも、ゴミ拾いをしたと伝えられている。サッカー以外でもテニスの大坂なおみさんが、対戦相手にお辞儀をしたり、ペットボトルを片付けてからコートを去ることも伝えられている。その他、ナポリを掃除する日本人男性やローマの教会前を掃除する日本人女性が新聞で紹介されている。これらの行為を世界の人々が「礼儀正しい」「尊敬する」など賞賛している一方、「仕事を奪う」「迷惑行為」との声もある。

私もアメリカにいたころ同じようなことを言われた。ゴミを持ち帰ったり、片付けたりすると、「他人の仕事を奪う」と注意されたことがあった。イタリアの家でも、お掃除の女性がする仕事は残されていた。日本の家では、「あまり、きれいにされると私の仕事なくなる」とお手伝いの女性から真顔で言われたこともあった。それぞれの人がそれぞれに収入を得ている。ワーク・シェアリング的な考え方がここにもあるのだろう。雇用機会の確保としての仕事は分け合う。一方ではパブリックマナーとして、自分のゴミは自分で片付けるという気持ちも必要かもしれない。家の中はすばらしくきれいなのに家の外ではポイっと物を捨てる人、家の中よりも家の外をきれいに見せようとする人、様々だ。

マナーやゴミの問題が取り上げられるとき、いつも私が思いだすのは、テレビでみた小学校お受験の問題だ。「もらったキャンディを食べたそのあとの包み紙はどうしますか？」さて、あなたなら、どうするだろうか。(松原)